



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：アブドゥラー国王科学技術大学の開校式典 (9月24日付現地各紙)

1. 9月23日（注：第79回サウジアラビア建国記念日）夜、アブドゥラー国王はジェッタ近郊に建設されたアブドゥラー国王科学技術大学（KAUST: King Abdulla University for Science & Technology）の開校式典を主宰した。  
同式典には約30カ国から元首・首脳など要人を含めて約3,000名が参加した。
2. 同式典でのアブドゥラー国王のスピーチ（概要）
  - (1) 過去25年以上にわたりKAUST設立構想を温めてきたが、本日このようにサウジの夢が実現できたことは実に喜ばしい限りであり、アッラーに感謝申し上げる。
  - (2) 人類の文明という観点からは、イスラム文化は多分野において貢献し、人類に大いなる影響を与えてきた。特に、医学、化学、数学、社会学の分野では優れたイスラム学者が輩出されてきた。我々の文化・文明はゼロからではなく、これらの過去の遺産にもとづくものである。
  - (3) イスラム共同体のパワーは知識に裏打ちされてきたが、それはアッラーの御導きのお陰でもある。知識と信仰は敵対するものではない。ただし、精神を病んだ者たちにとっては別である。「アッラーを畏れる者のみこそが実に科学者である」とアッラーが述べている。よって、KAUSTは、アッラーの教えが土台になっている。
  - (4) 敵対心を持ち、対話を忌避するものの存在、つまり過激派により人類は執拗な攻撃に曝されてきた。これらに対処するためにも、友愛、共存の価値にもとづく科学大学を設立することは不可欠であり、第一の防御線となろう。よって、KAUSTは、世界のすべての大学にとっての「知恵の館」であり、寛容精神の灯台とならん。
  - (5) 最後に、短期間でKAUSTを実現したサウジ・アラムコ石油会社関係者に感謝申し上げます。
3. 尚、アブドゥラー国王は、別途、式典に参加したバッシュャール・シリア大統領、ギュル・トルコ大統領、バシール・スーダン大統領、アヨロ・フィリピン大統領と会談し、二国間関係及び地域情勢について意見交換を行った。